

「社会福祉学が展開する支援の展望」 —ソーシャルワークの多様性と限界性の狭間で—

淑徳大学 稲垣美加子

2. 現時点での経過的内省

- ① 関係者へのインフォーマルな意見聴取から
 - 1) 備えの有効性
 - 2) 確認された想い: 共感・共苦
 - 3) 途断した経験の伝承(民間・専門性)
 - 4) 問われる市民の自立
 - 5) 顕在化した市民ベースの抑圧
 - 6) 揺らいだ“協定”
 - 7) 地域福祉実践への問い
 - 8) 社会福祉政策の硬直

3. 希望志向のソーシャルワークへ

- 1) 「駅伝型支援」への展望
 - ・ “痛み”を語り継ぎ、支援を継続し、地域をはぎ合わせていく支援。
 - ・ “経験と勘”ではなく、ノレッジ・マネジメントが前提となる専門性の継承。
- 2) ソーシャルワークの多様性の再確認を
 - ・ 多様な担い手の紡ぎだす、重(柔)構造的なネットワークの構築

[社会正義と当事者主体]

被災地支援は、必ずしも共生や絆の再構築を目指すアプローチばかりではない。柔軟な市民活動を尊重しつつも、権利擁護の視点立った、専門職の適切な介入・調整が必要となる。

また時に過剰な善意は、当事者の主体性を抑圧してしまう。そして、当事者は忘れることで癒されることを志向することがある。「語り継ぐこと」を強要しない配慮も必要となる。

誰のための何のために支援か、理念に依拠した支援の展開が望まれる。

1. 自然災害とソーシャルワーク

① 「自然災害」という突発的な要因によって生じるニーズとは

[特別視させる要因]

- ・ 予期せぬとこに起きる
- ・ 大きな被害をもたらす
- ・ 人(私)の暮らしを揺るがす
- ・ マスコミなど社会の関心を引きやすい

[普遍的要素]

- ・ そこに生じる生活課題の軽減・解決
- ・ 人や地域を個別化した自己実現への要求
- ・ 希望を見出し、未来を切り開きたいという想い
- * 阿部志郎(2011) 放送弘済会主催「社会福祉セミナー」基調講演

2. 現時点での経過的内省

② 阪神・淡路大震災の「その後」との比較から

- 1) 活かされていない経験の招いた課題
 - ★ “災害弱者”への備えのない避難所・避難経路
 - ★ ライフラインの途断を適切に想定していない“防災”
- ★★ 専門職による“見立て”の課題
 - ・ 被災地域に関するインターフェイスの視点
 - ・ 住民相互の生活支援の可能性のアセスメント
 - ・ 被災地の周辺地域支援の可能性の見極め

なぜ、専門職なのか

地域性
専門性
情報のアクセス権

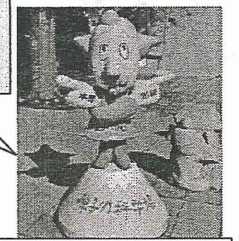
特に、日ごろから専門的支援を必要としている人たちの課題への介入について

3. 希望志向のソーシャルワークへ

- 3) 専門職による支援の厚みの必要性
 - ・ “ジェネリック”“ジェネラリスト”であることが志向される“暮らし”の支援。
 - ・ 適度なエバリュエーション、再アセスメントによる活動の展開
- 4) ソーシャルワークが寄り添うものの理解
 - ・ 単なる“生活課題”ではなく、“人”“地域社会”“暮らし”“幸福” etcを探究し、対象を個別化した理解の必要性

[脱アトム社会]

“共生”への問い。
命の源泉である自然との共生を軽視してこなかったのか。
かつて描いたビルの林立する未来社会像から、安全・安心な人の暮らしの前提である緑ある環境を志向した多様な支援の展開が望まれる。



茨城県東海村原子力科学館アインシュタイン像

1. 自然災害とソーシャルワーク

② 発災直後の支援とソーシャルワーク

1) 広域災害

- ・ 多様な生活課題が同時に多発し、命の危機にかかわる深刻な課題が発生する
- ・ 利用者と支援者が同時に被災者になる



- 福祉サービス(formal)の「自給自足的供給」が困難になる
- 市民ベースの活動(informal)は速やかに多様に機能する

ソーシャルワークを、ソーシャルワーカー(専門職)によって提供される支援、あるいはサービスと限定した場合、阪神・淡路大震災、その後の自然災害、そして今回の東日本大震災においても、ソーシャルワークが即時対応しえないことはやむを得ないものと思われる。

2) 長期展望の必要性

- * 未来に希望を失わないためにも過剰な期待を寄せ過ぎずに、堅実な復旧・復興の志向を

- ・ 暮らしの回復の限界性の存在
- ・ 人々の心の痛みは未知数
- ・ 一旦復興した暮らしも加齢とともに再構築の必要性が生じる
- ・ 意識的な継続的支援の志向

“社会の興味・関心は移ろいやすい”

4. 小括にかえて



震災後2カ月の風景
隣接する二つの地域

揺れはみんなを震った、
けれど、被害は強靭なま
でに入それぞれ。



被災された皆さんに、心からのお慰めを申し上げます。

